

Feng-Shui Gallery

special edition vol.45

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『アクセントカラーの使い方 vol.3』



[右ページ写真]アクセントカラーの壁面が曲線になっており、包まれているような印象のLDK空間。アクセント以外の壁や天井は明るいアイボリー系のクロスでまとまっており、バランスがとれた空間となっています。[写真1]花柄の壁面クロスがアクセントとなっているトイレ。柄のクロスはゴチャゴチャした印象のものはなるべく避け、色の種類が3種類程度で落ち着いたカラーリングのものが良いでしょう。[写真2・3]クリーム色の壁と天井で構成された空間は、明るい木目や、オレンジや黄色のアクセント壁がよく合います。どちらの空間も明るく、希望や活力を感じさせる空間となるでしょう。[写真4・5]薄い色や布地のアクセント壁など、色が濃いものでなくても、視線を引き付けるようなデザインを施すことでアクセント壁とすることが可能です。シンメトリー(左右対称)なデザインであると、より整った空間と感ずるでしょう。[写真6]ビビットなオレンジ色の壁紙、柄の入った生地のシェードカーテンを配した壁に、ブラケット照明のライトで色の濃淡をつけた、とても動きのあるリビング空間。昼夜でイメージが変わるデザインは日々変化を感じられ、脳に良い刺激を与えられる良い空間といえます。



**アクセントカラーは1面とは限らない。
空間全体でバランスを整えることで
大胆なカラーリングを用いることも可能に。**

アクセントカラーにビビットな色や柄を用いると、その空間のエネルギーは強まります。しかし、色や柄が強すぎて空間のバランスが崩れてしまうと、意味がありません。他の壁や天井のクロス、床や家具の色とで調整をするとアクセントカラーを活かすことが可能です。